

「豊中市立図書館における中央図書館機能について意見書（案）」（第2項）

はじめに

豊中市立図書館は、これまで4地域館を中心とした体制のもと、市全域を担う図書館ネットワークを構築し、サービスを行ってまいりましたが、将来にむけてサービスの維持向上および効果的・効率的に事業を推進できるあり方として、中央図書館を核とした体制への移行の提案がありました。

現在の岡町図書館の建物は、昭和44年（1969年）建設からほぼ50年が経過しており、遠くない時期に建て替えが必要となります。この岡町図書館を含め、今後の施設配置を検討するうえで前提となるものが、事務事業の見直しを継続して取り組む必要があることと、施設の維持管理について市としての方向性を定めた「豊中市公共施設等総合管理計画」です。将来にわたり安定して市の公共施設を維持管理するためには計画的に施設総量、全施設の床面積の2割削減に向けて長期的に取り組む必要があることが示されています。このことから図書館も限られた資源（人材・資料・予算）を有効に活用していくための施設の再編を検討していくことが求められています。

こうした視点から豊中市の図書館を総体的に捉えたとき、図書館サービスの中核的な機能を担う中央図書館機能の不在が焦点になってきました。これを受けて、図書館協議会として、中央図書館を核とした施設配置のあり方および、中央館、地域館・分館それぞれの機能分担やふまえるべき点などについて平成29年度から2年間かけて議論してきました。

豊中の図書館のサービスは、市民にとって身近な図書館である地域館や分館によって担われてきました。地域の図書館がそれぞれの住民にとっての「私の図書館」を実感できる存在になることが、豊中市全体の図書館サービスの質を高めていくこととなります。中央図書館の機能を考えるにあたっては、図書館資源や情報を集約することの目的が、地域館・分館を含めた図書館全体のサービスをさらに充実するためであるという点を基本に据えることが大切です。

中央図書館を中心とした機能を考えるために、議論の過程として図書館サービスを7つの視点に分け、それぞれについて具体的に検討しました。現状を振り返り、効率化をはかりながらサービスを向上していくための方向性を示し、中央館と地域館・分館との役割分担を表しています。

平成32年度には中央館機能を持った図書館や図書館全体の適正配置のあり方をまとめた中央図書館構想が策定されます。図書館協議会として、この2年間の議論をふまえ、中央図書館と地域館・分館が持つべき機能について、豊中市立図書館総体としてどのようにサービスを充実させるか、専門性の高いサービスを長期的にかつ安定的に提供していくために欠くことのできない視点は何か等を集約・整理し、意見書として提示するものです。

1. 全般

1-1. 現状とめざす方向

(現状)

図書館条例・規則に基づき設置された4つの地域館(岡町・庄内・千里・野畑)とその分館・分室

(服部・高川・庄内幸町・東豊中・螢池)が、個別事業の性質に応じ、1館または4つのエリア毎、あるいは全館を横断するチームで事業を実施している。

各館	サービス対象別の担当セクション	貸出室、参考室、こども室、動く図書館、図書室、団体貸出サービス、障害者サービス、YAサービス(兼務)、整理業務等
	事務局(兼務)	しょうないREK、北摂アーカイブス等
全館を横断	チーム(兼務)	暮らしの課題解決支援サービス、分析PRチーム等
	委員会(兼務)	選書委員会、コンピュータ委員会、図書館活動編集委員会等

各館の人材は固定で、カウンター業務等で応援が必要な時は、まず地域館・分館単位で、次に対応エリアを順に拡げて調整する。

各館の事業をそれぞれ(個別事業の主な担当館)がPR・発信している。



(めざす方向)

- ・サービス全体の把握
- ・オール豊中で優先順位を共有した事業の取組み
- ・調整や迅速な決定ができる仕組みの構築
- ・災害や事故発生時の全館的な体制づくり
- ・効果的なPR

1-2. 中央図書館機能

各地域館・分館からの利用状況、地域情報、潜在的ニーズ、事例(サービス、レファレンス、相談、行事等図書館活動全般)を集約・整理する。

集約した情報をもとに豊中全体として図書館活動の現状分析や、先進事例の調査・研究を行う。

図書館全体の基本方針・サービス計画を立案し、豊中全体としての事業展開を推進する。地域館・分館の事業をバックアップする。

人員体制・応援体制を整備し、地域館・分館のバックアップや行事等の応援に対応する。

災害や事故等のリスク発生時には司令塔的な役割を担う(関係部局・機関との連携窓口、長期化する場合の対応等)。

プレスリリース等を一括で管理し、効果的なPR・情報発信を行う。

1-3. 地域館・分館機能

地域情報・利用者ニーズを、地域に出向いて把握する。

地域情報・利用者ニーズ、利用状況を中央館にフィードバックする。

地域の特色を活かした図書館サービスを立案・実施する。

災害や事故等のリスク発生時には、初期対応にあたる。

1-4. (今後に向けて) 留意点・視点

- ・市民ニーズの把握 地域の情報の収集

市民ニーズの把握が適切にできれば、中央図書館／地域館・分館がそれぞれの機能を生かせる。

ニーズ把握では、市民に身近なところである地域館・分館の職員が地域に出て、市民・地域との繋がりの中で情報を得ることが求められる。

- ・図書館からの情報発信／PR

図書館で取り組んでいることを広く知らせる従来のPR方法から、ニーズをきちんと把握しターゲットを絞った情報発信や、非来館者へのアプローチ等、効果的なPRが望まれる。

図書館の役割や使い方を広く知ってもらうには、関係部局・機関との連携や、市民自身が図書館を活用した体験をPRに活かすことが有効となる。

図書館利用の多様性

- ・豊中の図書館のあり方・強みを大切に

中央図書館構想でも、今まで市民に近いところで培ってきた豊中市の図書館活動、市民協働による図書館づくり、図書館運営がベースとなる。

- ・地域館分館の活動をバックアップする中央図書館構想

それぞれの館が自主的な主体性を持って決めていく仕組みが大切で、中央図書館には地域館の活動をバックアップする機能が求められる。

- ・市民が学んだことを社会に還元する仕組み

- ・中央館と地域館分館との連携の仕組み

- ・専門職としての図書館職員の育成

2. 資料収集・保存

2-1. 現状とめざす方向

(現状)

館毎の固定（所蔵館方式）ではなく、全館の資料を物流便で動かしながら利用者ニーズに応じている。

予約の多い館に新刊の資料が集まる傾向がある。

選書は一括しているが除籍作業は館毎に行っている。野畑図書館の書庫は豊中市全体の保存機能を担っているが、所蔵冊数は既に上限に近い。

レファレンス資料は、主に参考室がある館（岡町・千里・野畑図書館）で分散して所蔵している。

学校図書館やこども園からの資料ニーズには、最寄りの地域館・分館が窓口となり対応している。

地域館では、課題解決サービスなど、館毎に特色を持たせた書架構築をしている。



(めざす方向)

- ・レファレンスコレクションや課題解決支援サービスの資料の集中化
- ・各館で収集・把握している地域資料・情報の図書館全体で共有する仕組みの構築
- ・選書、受け入れから除籍にいたる資料の流れの一元化
- ・資料の集中管理による豊中市として保存すべき資料を見極める仕組みの構築

2-2. 中央図書館機能

選書から除籍までの流れを中央図書館で集中して行う。（選書機能、保存機能の強化）

レファレンス資料を中央図書館に集約し、充実したレファレンスコレクションを構築する。

入門書から専門的レベルの資料情報を揃え、比較閲覧ができるようにする。

児童書、季節や行事の本等、団体貸出用の複本資料を所蔵する。

地域館・分館から集まる地域資料・情報を整理して保存・提供する。

2-3. 地域館・分館機能

基本的な一般書、小説、絵本や児童書、趣味・季節・行事の本、育児書、雑誌等、身近な図書館で利用の多い資料を中心に収集提供する。

新聞の閲覧コーナーを設置する。

各館の規模に応じたレファレンスコーナーを設ける。

学校やこども園等、施設や団体からの要望に応じて季節や行事の本など時宜的な資料を収集提供する。

資料情報に限らない地域情報（写真や風景、人材、地域での講座等の学習情報、連携先等の多様な情報）

や郷土資料を積極的に収集する。

3. レファレンスサービス

3-1. 現状とめざす方向

(現状)

岡町・千里・野畑図書館の3館にレファレンス機能(資料・人材)が分散している。

学校図書館やこども園等からのレファレンスは、地域館・分館が窓口となり対応している。

各館の資料で回答が難しいレファレンスは、全館に協力を依頼し、豊中市全体の資料を使って回答する。

市役所の部局からのレファレンスは岡町図書館の参考室が窓口となり対応している。

地域課題に対しては、各館が個別に対外的な連携窓口と相談・調整を行っている。



(めざす方向)

- ・レファレンス機能(資料・人材)の集中によるワンストップでの回答
- ・暮らしの課題解決支援サービス等の資料の集中化および複数の関係部局・機関との窓口統一による複合化した地域課題に関するレファレンスへの対応

地域課題：多文化共生、子育て支援、就労、子どもの貧困、DVや虐待、高齢者支援、認知症、等々

3-2. 中央図書館機能

レファレンス(資料・人材)を集約し、高度なレファレンスに対応する。

地域館・分館からのレファレンス依頼をバックアップする。

対外的な連携窓口として、関係部局・機関との連絡や調整を行う。

レファレンス事例を集約・整理し、レファレンス協同データベースへの登録や市民への公開等、知の蓄積が広く利用できるよう整備する。

3-3. 地域館・分館機能

レファレンスの受付、適切なインタビューによる聞き取り、所蔵資料による一次調査を行う。

身近なレファレンスコーナーとして初期対応し、必要に応じて中央図書館を紹介する。

中央図書館からのバックアップにより、資料群とともに短期間に回答を届ける。

レファレンスサービスを利用したことのない利用者に対するPRを考えサービスを広く知らせる。

4. 多様な学習機会の提供

4-1. 現状とめざす方向

(現状)

各館で人権講演会、文字活字文化振興事業、朗読会等を実施している。

活動場所や情報の提供、ボランティア・フォローアップ講座により、ボランティアグループへの支援を行っている。

関係部局・機関と連携して医療・健康情報レクチャーやビジネスゼミナールを開催している。しょうないREKや北摂アーカイブスとの共催により、外国人親子に向けた高校進学説明会やウィキペディアタウンinとよなか等を実施している。

千里コラボ大学校や保健所等各種講座に出向いて、関連資料の展示・貸出を行っている。

図書館で調べ学習を体験する「知的探究合戦めざせ！図書館の達人」を学校と連携し実施している。

市民協働スペースの開放や夏休みの集会室の開放により、一部で自習スペースを提供している。



(めざす方向)

市内で開催される講座の充実、次のステップに繋がる情報や、実際に活動を始める時の提案を

多様な学習ニーズ（個人やグループ学習、自習スペース等）に対応

利用者同士、市民同士が学びあう機会の創出

利用者教育の取組み

4-2. 中央図書館機能

多様な学習ニーズに応える事業計画を立案する。

図書館の使い方を発信するような図書館活用講座、情報検索や情報リテラシー講座の企画を行う。

市内で開催される講座や学習機会の情報を集約し、整理して提供する。

4-3. 地域館・分館機能

身近な学びの場として各種講座を開催し、学習成果を発表する機会を作る。

図書館の学習機能に対する利用者ニーズや地域の課題について把握する。

学びの場・機会、地域活動やグループ活動等、地域の学びに関する情報を意識して収集する。

5. 利用者に応じた図書館サービス

5-1. 現状とめざす方向

(現状)

児童サービスでは、ブックスタート、絵本出前講座、子ども読書活動等、窓口が分散している。

外国人へのサービスでは、庄内図書館の多文化共生支援コーナー、岡町図書館の世界の子ども本の部屋等、資料と窓口が分散している。

学校図書館への支援は読書振興課が統括し、地域館・分館は資料提供、レファレンスに対応している。

団体貸出サービスでは、サービス対象の施設や団体が多様化している。



(めざす方向)

シンプルな組織体制によって担当者の調整を容易に

事業計画やサービス方針を迅速に決定

窓口を統一

限られた資源（資料・人）の最適配置と優先順位の共有

5-2. 中央図書館機能

すべての市民への図書館サービスをめざし、全体のサービスの統括・調整を行う。

I C T等の活用により、利便性の高い図書館システムを構築する。

団体貸出や動く図書館の拠点として、アウトリーチサービスを整備する。

学校図書館支援の統括窓口として、豊中市全体としての小中学校との調整を行う。

5-3. 地域館・分館機能

赤ちゃんから高齢者まで、あらゆる利用者へ直接サービスを行う。

エリア内の潜在的ニーズを把握し、中央図書館にフィードバックする。

障害のある方や外国人の方が図書館へ来館した時に、図書館サービスを提案し、利用できるようにサポートする。

エリア内の学校やこども園等、施設や団体からの資料依頼やレファレンスに対応する。

6. 市民協働事業等の推進

6-1. 現状とめざす方向

(現状)

市民との協働により多くの図書館活動を実践している。
協働事業の関係者間での情報交流の機会や仕組みがある。



(めざす方向)

市民団体同士の活動情報や課題の共有場や仕組みの構築

6-2. 中央図書館機能

地域館・分館での協働の取組みをバックアップし、市民活動を支える全体的な調整を行う。
地域館・分館での協働の取組み状況を把握し、個人・グループの活動を繋ぐ拠点となる。
関係部局・機関、市民の対外的な窓口を担う。

6-3. 地域館・分館機能

実際の活動の場として、市民・ボランティア等と共に、市民協働事業を実施する。
地域館・分館での特色ある協働事業の情報を中央館にフィードバックする。
地域の課題やニーズ等の地域情報を地域に出向いて把握する。

7. 職員（研修、人材育成）

7-1. 現状とめざす方向

（現状）

「豊中市立図書館の中長期計画（グランドデザイン）」に沿って、体系的な研修の実施（図書館専門研修、一般研修、人権研修等、幅広い分野の研修）、職員の役割分担に沿った研修への参加を行っている。

研修報告は職員の情報共有システムにより共有している。

「児童図書館員養成講座」や国立教育政策研修所の「図書館司書専門講座」の長期研修は、受講後の報告を全職員向けに行う。

人材育成カルテにより、職員の館および担当セクションの履歴を把握し、長期的な人材育成に繋げている。



（めざす方向）

図書館職員の専門性、研修・人材育成の成果の還元と市民への周知
職員間での知識やスキルの継承

7-2. 中央図書館機能

職歴に応じた職員配置により、長期研修等に計画的に参加できる体制を整備する。

中長期のサービス計画を視野に入れた将来的な課題に対する研修の計画を行う。

情報リテラシー、ICT教育等、情報全体に関わる人材を育成する。

経験の異なる職員が集まることで、図書館サービスに関わる専門的な知識やスキルを継承する体制を作る。

7-3. 地域館・分館機能

市民への直接サービス、利用者対応の中で、OJTでの人材育成を行う。

おわりに

平成30年6月、市の「基本政策」の1つ目の柱である「教育文化先進都市とよなか」に「中央図書館構想の策定」があげられました。11月にはその教育文化先進都市をめざした取組みを進めるため「豊中市の教育及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」（以後「施策の大綱」）が策定され、その方針として「誰もが豊かな人生を送ることが出来る環境を作る」ため、生涯学習の充実が掲げられています。図書館は、知の拠点であり、生涯学習の支えとなる施設です。

これまで豊中市立図書館は、図書館運営に関する自己点検の評価システム、定期的な外部評価などにより、地域特性に応じた図書館サービス、市民のニーズにこたえる図書館づくりにつとめてきました。その結果、「豊中市公共施設等総合管理計画策定にかかる市民アンケート」では「過去1年間に利用した公共施設」で1位、「優先的に充実させていくべき施設」で2位と、市民にとって重要な公共施設の一つとなっています。

昨今の図書館を取り巻く状況は厳しさを増していますが、豊中市が描く中央図書館構想は、図書館の質を維持しつつ、効率化をめざしながらも、より高度なサービス提供を可能とするものでなければなりません。図書館協議会として、豊中市がこれまで積み重ねてきた図書館サービス総体の質を落としてしまうことがないように求めます。

今後、中央図書館構想策定に向けた議論を進めるにあたっては、これまでの豊中市立図書館のあり方をふまえ、「施策の大綱」に掲げられた、すべての子ども、若者が自分の人生を切り拓く力を育み、誰もが豊かな人生を送ることが出来る環境をつくりに必要な施設として、次世代の図書館のすがたを考えることが重要です。教育文化先進都市とよなかにふさわしい中央図書館構想が策定されるよう、この意見書が活かされることを期待します。